

【2021年度 決算の概要】

『資金収支』について

収入の部では、寄付金収入、補助金収入、受取利息・配当金収入、雑収入において予算額を上回る収入となった。

寄付金収入では、学園創立90周年事業寄付金や、全日本少年軟式野球大会・選抜高等学校野球大会といった中学・高等学校の部活動全国大会にかかる寄付金等により特別寄付金の増、補助金収入については、私立大学等経常費補助金の配分基準の見直しによる増、私立学校情報機器整備費補助金の獲得、認定こども園施設型給付費の上乗せ等により増収となった。雑収入については、選抜高等学校野球大会関連収入（チケット代・生徒参加料等）により予算額を上回った。

また、減収となった科目のうち、手数料収入については、大学における入試制度の変更や短期大学部の受験者が想定数を下回ったことにより減収となっている。付随事業・収益事業収入については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、模擬試験料収入が予算額を下回ったほか、各事業の中止・縮小により減収となった。

資金収入の合計としては13,234,563千円（学生生徒等納付金収入から雑収入までの収入は6,192,163千円）となり、予算比24,884千円の増収となった。

支出の部では、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出において、予算を下回ることとなった。人件費については、その他手当・本俸等の実績減、教育研究経費支出・管理経費支出については、新型コロナウイルス感染症対策に伴う事業の見直し、活動自粛等による事業経費の減少が主な要因である。施設・設備関係支出については、総合運動場トラック改修工事の工期延長に伴い翌年度繰延、また学園テニスコート照明LED化工事を経費科目に振替したことにより減少となった。

単年度資金収支において、2,167千円の支出超過となったが、上記要因の他、期末未払金が大きく増加したことにより、予算に比べ533,406千円の収入超過となった。

『事業活動収支』について

教育活動収支においては、予算額に比べ収入で63,413千円の増、支出で178,839千円の減となり、収支は411,621千円（予算比:242,252千円増）となった。支出の部では、基本的に資金収支同様であるが、教育研究経費・管理経費には減価償却額を含んでいる。

教育活動外収支においては、収支は26,659千円（予算比:2,312千円増）となった。

特別収支においては、予算額に比べ収入で9,500千円の増、支出で28,733千円の増となっており、収支は△3,611千円（予算比:19,232千円減）となった。

その結果、経常収支差額では、438,280千円（予算比:244,565千円増）、基本金組入前当年度収支差額は、434,669千円（予算比:275,332千円増）となった。

基本金組入額は、当期の施設改修および除却等で基本金対象資産の減少があるものの、新キャンパス用地造成工事、総合運動場トラック改修工事、大学体育館トイレ改修工事、中学黒板プロジェクター設置工事、泉幼トイレ・パンTRY改修工事等の増加があったため、419,254千円の組入を行っている。

当年度収支差額については、資金収支同様の要因で15,423千円（予算比:394,950千円の収支改善）となった。

翌年度繰越収支差額については、△3,685,002千円（予算比:394,950千円の収支改善）となった。

『貸借対照表』について

資産の部においては、468,592千円の増となった。固定資産の有形固定資産の部では、新キャンパス用地整備、大学授業収録システム・移動収録システム、中高無線LANアクセスポイント・L2スイッチ、生徒用机・椅子、総合運動場トラック改修工事（建設仮勘定）等が計上されている。特定資産については、資産運用方針に基づき組入が行われている。

負債の部においては、未払金、前受金、預り金、科学研究費預り金の増加に伴い33,923千円の増となった。なお、負債額の総資産に占める割合は約10.2%となり、前年度に比べ0.1%減少した。

基本金については、本年度第1号基本金に389,245千円、第2号基本金に30,000千円の組入れを行い増加となった。

翌年度繰越収支差額は、15,423千円の収入超過となった。